

(様式2) 平成 27 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572706323
法人名	社会福祉法人 横手福寿会
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム ひだまりの家
所在地	横手市増田町吉野字梨木塚101-1
自己評価作成日	平成27年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田ハッピーライフセンター
所在地	秋田市将軍野桂町5-5
訪問調査日	平成27年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「ゆったりとした暮らし」「その人らしくいきいきとした暮らし」「地域とのふれあいを大切にしたい暮らし」を念頭に置き、入居者1人1人が居心地良く安心して生活できるように配慮している。入居者のペースを大切に起床時間や食事の時間、入浴のタイミングなど一人ひとりに合った対応を行っている。医療では、訪問看護の利用を今年度より開始し、相談や緊急時の連絡体制を整備、週一回の訪問で健康管理を実施し体調管理に努めている。また、できるだけ在宅時からのかかりつけ医を継続して利用し、病状の把握、安定に努めている。食事では、入居者と食材を買いに行ったり、献立の相談や調理を職員と一緒に等入居者様と協力して食事作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は自然の景観に恵まれ、傍にりんごの里福寿園があり、同系列のグループホームひだまりの家が隣接している。緊急時にはお互いに助けあって利用者が安心して支援を受ける事ができ、職員も人事異動で各施設の良い所を持ち込み、サービスの向上を図っている。建物は明るく天井も高く清潔である。広報紙「あがってたんせ」の認知症一口メモでは、認知症の行動及び心理状態について解り易く解説し、地域貢献に一役買っている。利用者のできることを大切にして職員と共に生き生きと生活している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・会議等で定期的に理念の意味を確認し、理念を念頭に実践に努めている。	理念を実践しながら毎年検証している。職員会議で話し合い、利用者の視点に近づけるよう見直している。理念に基づいた基本方針についても話し合いをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・行事で協力を得るなど地域との付き合いができています。 ・日常的には難しいが、ひなたの家も地域として捉え行事等を通して交流を行っている。 ・運営会議を通して、検討課題となっている。	法人より地域協力員・運営推進委員が委嘱され、事業所と地域をつなぐ重要な役割を果たしている。この12月で48号となる広報紙「あがってたんせ」は年4回発行され、近隣地域の全世帯・主要箇所に配布されている。	地域の幼稚園・小学校などと交流する糸口を是非見つけていただいて、利用者との交流をすすめられるように期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	・年4回広報紙を発行している。内容について、取組の報告だけでなく、毎回認知症について取り入れており、知識を還元できるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に一回運営推進会議を実施し取組について報告し、意見を聞いている。出された意見はサービスに取り入れている。	事案を継続的に報告できるように配慮されている。利用者家族や、地域協力員・運営推進委員の出席があり、活発な質疑がなされ、その後の利用者支援に結びつけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議に参加する市職員や定期的 に訪問する介護相談員に日頃の様子等について伝えている。	成年後見制度活用の利用者への支援、介護相談員の受け入れ等、必要に応じて行政と連絡を取り合いながら支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止マニュアルがあり、勉強会でも取り上げ理解を深めている。 ・玄関の施錠は、一般家庭と同様防犯のため夜間のみ実施している。	「高齢者虐待防止マニュアル」「身体拘束廃止マニュアル」を定め、小さなことを見逃さず、職員にアンケートを取るなどしながら、職員会議で検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待マニュアルがあり、勉強会等を通し、学ぶ機会を持っている。 ・高齢者虐待防止について意識調査を行い、防止のための意識の向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・勉強会で学ぶ機会を持ち、理解を深める働きかけを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・管理者が行っている。 ・契約や解約時は詳細な説明を行い、確認しながら理解、納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見箱を設置したり、面会時や運営推進会議時に要望を伺う機会を作っている。要望はすぐ取り入れるようにしている。また、介護相談員が訪問し、話を伺っている。	広報紙「あがってたんせ」のほかに毎月利用者のスナップ写真を載せて家族に届けている。家族にはこまめに電話を入れて連絡を取り合い意見等はすぐ検討し、実行し、報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議で意見交換しているが、全員とまではいっていない。	毎月のユニットごとの職員会議では一人1議題を提案し、職員が全員参加できる体制を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・法人の就業規則に沿って運営されており、条件の整備もされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・面談を行い、個々の状況を把握する機会を作っている。 ・内外の研修機会を確保し、個人に合わせた研修が受けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・GH情報交換会のネットワークがあり、研修会に参加する機会を作っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前訪問時、本人からの聞き取りを多く行っている、サービス利用開始時特にコミュニケーションを多くとり安心していただけるよう努めている。 ・サービスを開始してからは、出来るだけ声掛けを多く行い、状況や希望の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・事前訪問時、ご家族にも詳細な説明を行いながら、困っていること、要望時、十分な聞き取りを行いコミュニケーションを多くとり安心して利用していただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・入居者から職員や他入居者が教わる機会を作っている。教えていただいた際は、お礼を伝え、自尊心が高まるような関わり方をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族には、月に一回「ひだまり通信」を送付し、出来るだけたくさん写真をつけて近況を報告し、状況の理解が深まるように働きかけている。 ・可能なご家族には受診に付き添っていただいたり、行事に参加していただく等協力をいただき、ご家族と共に支える支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの場所や人の把握が全員とはいえない。	利用者の馴染みの理髪店、美容院を継続的に訪問し、利用者によっては、一時帰宅も支援している。ホーム内の友好関係やユニット間の交流も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・孤立してしまう方には、職員が仲介しコミュニケーションを多く持つなどしている。 ・関係性が良好に保てるよう席順の工夫を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退居時にご家族に、何かあったらいつでも相談していただきたい旨伝えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・意向調査を行っている。困難な方は日常の様子から推測したり、ご家族からの情報やバックグラウンドをもとに本人本位に検討している。	意向満足度調査で利用者の率直な意見を聞き取り、ユニットごとにまとめて職員会議で検討している。日常生活場面はもとより外食時やボランティアの来所時等に利用者の新しい一面を知らされることもあり、職員で情報を共有しながら支援に活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に記入可能なご家族から『発症シート』に情報を記入していただいたり、聞き取りを行い、情報把握に努めている。また日常会話の中から聞き取った新たな情報を書き留め、その後のコミュニケーションやケアに活かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の状況や気づきを都度カルテや連絡ノートに記載し、情報を共有して現状の把握に努め、変化時は口頭での申し送り等で他スタッフにも伝えている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・家族、本人の要望を聞き、また他の職員からも意見を聞き、居室担当と密に話し合い、その方の状況にあった介護計画を作成している。	急変の利用者以外は6カ月ごとにモニタリングを行い、日々の記録や職員会議の話し合いを参考にして担当職員とともに計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・カルテや連絡ノートに記載、ユニット会議での情報交換をしている。気づきや工夫はすぐに実践に取り入れている。また介護計画にも反映できるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域行事に足を運んだり、同じ敷地内にある事業所と交流、ボランティア団体に慰問に来て頂き支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医、薬局の希望がある場合には、可能な限りこれまでのかかりつけ医、薬局を利用できるようにしている。	利用者の従来からのかかりつけ医を継続しながら協力医療機関として平鹿総合病院、訪問看護ステーションひだまりの郷と連携し、利用者の急変に備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護と連携を取っており、週一回詳細を報告している。随時看護師に相談できる体制をとっており、状態に変化があった場合は相談している。緊急時に指示、状況により駆け付けられることになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院した場合は、ご家族が出来ない場合、洗濯の持ち帰り時などを行い、その際、看護師と情報交換を行っている。出来る限り面会にもうかがっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ひだまりの家では看取りを行わない方針であることを入居時に十分に説明を行い、理解を得ている。重度化しそうな時にご家族と話し合いしひだまりの家でできる範囲を説明、その後のことも相談していくことを確認している。	看取りを行わない方針であるが、利用者が継続した生活ができるように、主治医・訪問看護ステーションと連携して最大限支援したいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアル、緊急時対応マニュアルを作成し、勉強会でも学ぶ機会を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回(日中、夜間想定)の消防避難訓練を実施している。地域の消防団にも立ち会ってもらう等連携をとっている。	電気器具やコンセントの点検を定期的に行っている。年2回の避難訓練を実施しており、消防署からの指摘事項について職員会議で話し合いをしている。	2回の避難訓練のうち、夜間想定 of 避難訓練の場合は夜間の実態に即したより厳しい想定をすること、または実際の夜勤体制で実施されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人格を尊重し丁寧な対応に努めている。プライバシー保護のマニュアルがあり、周知に努めている。	利用者一人ひとりの個性や習慣を職員が共有して支援している。着衣、休憩、睡眠、趣味、食事の支度、テレビのチャンネル等々あらゆる場面で、敬意のある話し方で、利用者の意思を確認しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自己決定しやすいよう、入居者によって答えやすい質問内容に言い換え、まずは本人へ意思確認を行う姿勢で接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人一人のペースを大切に入居者の意思を大事にしているが、日々の希望まではうかがっていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	・着る物の決定はなるべく本人ができるよう支援している。 ・その人らしい髪型や服装になるように配慮しており、乱れているときはさりげなく介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立相談や下処理、調理、皿拭き等出来る力に応じて職員と一緒に行っていただきながら食事作りを行い、職員も一緒に食事をとっている。	昼夜の献立は食材を見ながら利用者と職員が相談して決めている。食材の買い出しや畑のジャガイモなどの収穫や調理、食器洗いまで様々なことにかかわりながら食事を楽しんでいる。誤嚥対策として職員がそばで観察しながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事・水分の摂取量を毎日チェックし把握している。水分が不足している場合は、好む飲み物を提供したり、お代りを提供したりする等工夫している。 ・毎日の献立の内容を記録し、確認を行いバランスのとれた食事になるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、できる力を活かした口腔ケアを行っており、仕上げ磨きや舌苔の付着などがないか確認している。問題がある場合にはりんごの里の歯科衛生士に相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・その人に合った排泄用品を選び、排泄パターンを把握した誘導や定時誘導を行う等できる限り失敗が少なくなる様に支援している。	利用者の排泄パターンを職員が共有し、利用者の自尊心に配慮しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・ヨーグルトやヤクルトなどの乳製品の提供やリハビリ体操等の運動を行い、便秘予防を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴前に声掛けし希望を聞く他、偏りなく入浴できるようにしている。	利用者一人ひとりに合わせてゆっくり入浴ができています。外出時に足湯を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・手伝いなど頑張りすぎてしまう人等への声掛け、休息をとっていただけるようにしている。 ・一人ひとりの状況や希望に合わせて、午睡していただき、休息の時間がとれるよう配慮している。昼夜逆転にならないよう注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬が変わるたびに周知し、医師の指示も含めて薬の内容を伝えている。 ・個人用カルテに薬剤情報をファイルし、その内容の把握に努めている。 不明なことがあれば薬剤師や訪問看護師、主治医に問い合わせしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・生活歴から、得意なことやできること、楽しみごとを引き出すようにしている。 ・いきいきと日々を送れるように、一人ひとりのバックグラウンドや意欲がみられることを把握し、それが日常生活に活かせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	・事前に入居者様の希望の聞き取りをし実現できるように計画を立てて個別外出等を行っている。	外出希望の利用者には予定を立てて出かけている。通院や買い出しの折に職員と1対1で外食を楽しんでいる。冬期間もエアマスクを着用するなどして積極的に外出している。事業所の周囲を散歩したり、お金を管理している人もおり、一人ひとりに合った支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・力量に応じて管理や支払いができる方にはしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の方に限られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・飾り付けに季節感を取り入れ、入居者に四季を楽しんでいただいている。 ・室温や湿度、明るさ、音等適度になるように調節している。	全館床暖房で各室にエアコンが設置されている。洗面所には天窓からの自然光がやさしい。掃除が行き届き、季節感のある大人感覚の折り紙の飾りつけや手製ののれんなどが和ませてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	・入居者がひとりでいたそうな時、さりげなく居室へ誘導しゆっくりしてもらっている。 ・食堂の一角にソファを設置したり、和室を備えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室にソファを設置し、休息時にゆっくり過ごしていただいている。 ・愛用品や位牌などを持ち込んでいる方もおられる。持ち込みの少ない方もおられるため、入居者と相談し、ヒヤリハットが起きないような配慮をしつつ写真等を貼る装飾を行っている。	各室にはベッドと事業所オリジナル設計のロッカー付き小箆が置かれ、利用者一人ひとりの荷物も多く、写真、位牌、テレビ、座卓などその人らしいものが持ち込まれ、それぞれ個性的な部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレに新たに手すりの設置し、移動しやすい配慮を行っている。 ・入居者様が理解しやすいような環境整備を行い、危険をできるだけ除去し、安心して過ごしていただけるようにしている。		